

築造から270年を経て、初めて大規模改修がされる本堂。来年3月までに地盤補強や減震パッキンの設置を済ませ、石段や浜縁など外観も一部変わる。いずれも17日、あわら市の吉崎東別院で

## 来年は新本堂で御影お迎え



浄土真宗中興の祖・蓮如上人(一四一五～九九)が北陸布教の拠点としたあわら市吉崎地区にある真宗大谷派吉崎別院(吉崎東別院)の本堂が、地盤補強や減震に向けた改修工事に入る。一七四七(延享四)年の築造以降、大規模改修は初めて。二十三日から工事準備に入り、完成は来年三月中旬の見通し。(北原愛)

# 吉崎東別院 あわら 初の 大改修

## 地盤補強や減震施す



本堂の大規模改修について意見を交わす出席者ら

老朽化を受けて二〇一五年に策定した境内総合整備計画の一環。中でも本堂の本格改修工事は最重要事項との位置付けで、門徒代表ら二十人が出席した十七日の会議で概要が説明され、承認された。関係事業費は一億一千万円。

地盤補強は、地盤を固める薬剤を本堂下の地面に注入する工法を採用。吉崎東別院は地山を切り崩して築造したため、長い年月の間に雨水ととも

もに盛り土が低いところへ懸れ、建物の傾きやゆがみが懸念されるという。地震発生時の上屋への影響を半減させようと、基礎と土台の間に減震パッキンも設置する。

本尊を安置する須弥壇を置く内陣は床板を研磨して漆を塗り直し、畳下の床材も補正して張り直す。風雪により傷んだ柱や建具は取り換え、雪困いは撤去して浜縁と一体化した外部廊下にデザインを變更する。

吉崎東別院は、蓮如上人が建立した「吉崎御坊」(通称「御山」跡の麓にあり、蓮如上人の肖像画「御影」が京都から運ばれる道中の終着点。来年四月には、新本堂で御影を迎えることになる。

代表である輪番の五辻信行さん(左)は「蓮如上人を慕う門徒の方々がいつも帰ってきてもうえ、交流の場となるよう整備したい」と話す。これまでも、一九九八年の蓮如上人五百回御遠忌法要に合わせ、本堂の屋根を葺き替えるなどしてきた。会議に出席した門徒の渡辺亨さん(右)は「鯖江市落井町」は「長い年月でもごも傷みがひどい。次世代のためにも、(工事は)一気にやらないとダメ」と、ホッとした表情で語った。